

7.1

E-エナジー

(E-Energy)

都市： ドイツ 6 地域

分類： 技術実証型、スマートグリッド型、再生可能エネルギー導入型、次世代交通システム型、熱・電気統合型、水処理型、IT 開発型、スマートハウス型

時期： 2008 年～2012 年

予算： ドイツ 6 地域関連計画や技術開発・転換に総額約 6000 万ユーロ（67 億円）助成

面積： 36 万 km²

人口： 8200 万人

主体： 連邦経済技術省、連邦環境省

政府機関： ——

参加企業： 独 RWE 社（電力会社）、独 E.ON 社（電力）、独 Siemens 社（重電/ICT）、独 SAP 社（SI/プラットフォーム）、独 Miele & Cie 社（家電）、独 Fraunhofer（研究所）など

**<技術実証型> <スマートグリッド型> <再生可能エネルギー導入型> <熱・電気統合型>
<次世代交通システム型> <水処理型> <IT 開発型> <スマートハウス型>**

ドイツ政府が行うスマートグリッドの国家プロジェクトであり全体構想でもある。併せて電気自動車（EV）版のプロジェクトである「E-Mobility」とも連携している。「E-Energy」は、連邦政府の技術政策に基づき連邦経済技術省と連邦環境省共同での助成支援プログラムの一環で、最新の情報通信技術（ICT）を導入し電力システムを最適化する。電力システムを自動的に監視、管理、規制することにより「エネルギー版インターネット」を開発するのが目的。2007 年に公募が行われ、連邦経済技術省は「オンラインでの電子市場」、「電力システムのコンピュータ化による制御管理」、「ネットワーク化」に重点を置いたプロジェクトを、連邦環境・自然保護・原子炉安全省は、「再生可能エネルギーの統合」に重点を置いたプロジェクトについて公募した。22 個の応募案件の中から、6 個のプロジェクト（図 1）を採択している。六つのモデル地域のうち、連邦経済技術省が、「ルール地方モデル地域」、「クックスハーフェンモデル地域」、「バーデンモデル地域」、「アーヘンモデル地域」を、連邦環境省が、「ライン=ネッカーモデル地域」、「ハルツモデル地域」を支援している。ドイツ 6 地域で関連する計画や技術の開発・転換に総額約 6000 万ユーロ（67 億円）を助成。そのうち連邦経済技術省が 4000 万ユーロ（45 億円）、連邦環境・自然保護・原子炉安全省が 2000 万ユーロ（22 億円）を助成。産業界の負担分を合わせた総投資額は 1 億 4000 万ユーロ（156 億円）となる。



図 1 ドイツの E- Energy のプロジェクト全体図

E- Energy6 地域のプロジェクト名と地域名の一覧（出所：E-エナジー）